

消えることの無い 60年前の記憶

大浜支部 南谷 多妃子

小学校に入学して間もないある雨の日、担任の上原先生に「放射能（昭和29年ビキ二環礁核実験）雨に濡れると髪の毛が抜けるので濡れないように下校しなさい」と言われたので、校庭側の教室の外で父を待った。周りの3、4人になってもなかなか父が来てくれない悲しさと髪の毛が抜ける恐ろしさで泣き出した時、やっと父が現れたので、ほっとして自転車の荷台に乗ってもらった。ところが、帰る途中の橋の架け替え工事で、柵は青い竿竹、板張りの仮橋の途中に差し掛かったとき、父が「1年1組の教室とは200mトラックの対角線上の一番端にある校門の入口まで泣き声が聞こえてきた。川内敏子ちゃんは1年生の中で一番遠い集落に住んでいて、父ちゃんの迎えが来なくても泣かずに待っていたのに、お前だけ一人大声で泣いていた。父ちゃんは情けない、この川に捨てたい！」と父が言い放った。

「そんなに言っただったら捨てたらええやん！」と1年生ながら反抗心が湧いたが、雨で増水した川は橋とすれすれにゴーゴーと音をたて茶褐色の濁流になっていたのを見て、一段と怖くなりしゃくりあげながら父の背にしがみついて帰った。

今にして思えば、父は戦地でのマラリアの後遺症の為、農作業は母がおこない、父は3人の娘達の授業参観を始め、健康管理（当時、学校では髪にDDTを振り撒かれていたし、家では回虫予防に月1回、黒砂糖入りの臭い海人草を沸かして飲まされた）は父がほとんど担っていた。それから、母が農作業に行くと留守の時に、マラリアの後遺症で高

「とも」の昨年9月号に掲載した戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

私の戦争体験 (17)

熱が出る前に寒戦戦慄の発作が出る度に、6歳の私を筆頭に3歳の末妹の3人は、一緒に父の布団に「父ちゃん！父ちゃん！」と叫びながら必死ですがつて発作が治まるのを待った。

父に戦争の話聞いたことはあまりなかったが、70歳を過ぎた頃から、戦死した友を掘った塚に井桁を組み、茶毘にして見守る最中に、死者が立ち上がる現象を眼にし、発狂した仲間。終戦後、現地の人に悪いことをした者が、銃殺刑になったとポツリポツリ話すようになった。ある時、父にこの世で一番怖いのは何かと尋ねたら、「暗い夜道やハブや蝮や猛獣は注意すれば回避出来るが、この世で一番怖いのは人間だ！」と答えた。人は一人殺しても罪に問われるが、戦争は何千人、何万人と殺戮しても、戦争という大儀名分の下に罪に問われることは無い！この世の不条理！を口にした。

新春のつどいは、名護市長選挙が支部長さん達の応援の甲斐もなく敗れて「沖縄の人々は何時まで経っても変わらない現状に疲れ果ててしまったのだ！」とやるせない気持ちで参加しましたが、長瀬文雄氏の記念講演を聞いて、団塊の世代の私の60年経っても昨日のこの様に思い出す、ビキ二環礁水爆実験後の死の雨の恐怖は「ノー・モア・戦争（ウォー）」の由来を再確認しました。

日本は、昭和20年8月6日、9日・広島、長崎に原爆投下された世界で唯一の被爆国であることを教訓に、日本は二度と戦争に参加も起こす事もない国民主権・平和主義・基本的人権の尊重の日本国憲法を改悪することなく、九条を守り、また、世界のどの国にも先だつて核廃絶への旗手となる使命があることを自覚しました。

一滴の雨はやがて海になることを信じて！

お楽しみクイズ クロスワードパズル

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、あて先／〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにて郵送ください。
●しめきり／2018年5月9日（水）消印有効
●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品（図書カード5000円分）を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

- タテのキー
- ①お腹にまで響く――の音
 - ②秋の雲で鱗雲ともいう
 - ③短期の対
 - ④グラフのX〇〇
 - ⑤いづれ。〇〇戦、由
 - ⑥〇〇
 - ⑦アフリカに生息するイヌ科の動物
 - ⑧縄文――の史跡
 - ⑨〇〇のやんばち
 - ⑩ほうほうの〇〇で逃げ
 - ⑪窓口を――回される
 - ⑫住民に公選される都道府県の長
 - ⑬物事に凝る性分
 - ⑭机、ベッド、筆筒の類
 - ⑮新聞の三面〇〇
 - ⑯矢が飛んでくる正面。――に立たされる
 - ⑰都道府〇〇
 - ⑱詳細。――面談
- ヨコのキー
- ①ミソカソミ
 - ②ツレイスリ
 - ③シシキートク
 - ④グコシレートク
 - ⑤ウイジン

カギを解き、二重ワクに入る文字をA B C順に並べてできる言葉は何？

1		2		3	4
			5	6	
7	8				
	9			10	11
12				13	
14				15	

●2月号の答「カーリング」
●応募数／75通

ミソ	カ	ソ	ミ
ツ	レ	イ	ス
シ	シ	キ	ト
グ	コ	シ	レ
ウ	イ	ジ	ン

俳句

桜散る思いつらくとも今を生きて
妻が亡くなって幾年か思いが妻の分、頑張って生きていこう。

手入れなき庭ひっそりと野水仙
原田 良子

老人ホーム十九の春もありました
年新た森友加計両質問
長谷川良雄
安東 利彦

川柳

*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2018年5月9日（水）です。
*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

会員さん紹介 ③2



向ヶ丘支部
いわさき 岩崎 和美さん

緩和病棟のボランティアに参加していました。また、日曜健診のボランティアでは、旧病院で雨が降ると雨漏りがして、バケツを持って走り回っていたことも思い出です。

今年7回忌となる主人が、大腸がんの末期で総合病院へ入院し、循環器の先生や看護師さんによく診てもらいました。主人も満足して亡くなったこともあり、自分ができることを返していきたいの思いが強いです。

兵庫県出石郡（現・豊岡市）の山の中で生まれ育ちました。大阪へは学校を卒業し、淀川の柴島の力ネボウへ就職しました。堺へは力ネボウをやめて諏訪ノ森の商社会社へ勤めたときに来ました。結婚して向陽町に長く住んでいました。

友の会との出会いは、東西支部の田中さんと職場が一緒だったこともあり、30代後半ぐらいに紹介され長いつきあいになります。

今後の活動の抱負は、職員との関わりをもっと深くして、一緒に動くことができれば、もっと活動が広がると思います。また、病院が差額ベットをとっていないことがあまり知られていないので、もっと宣伝していく必要があると思います。職員の方にもっと地域に来ていただけたらと思います。（文・写真 機関紙編集部）

編集後記

今、財務省の改ざん問題が大きな報道となつています。

昨午国会で議論されていた内容が改ざんにより根本的に変わってしまう問題だけでなく、民主主義の根底を覆す大きな問題となっております。

問題・疑惑はこれだけにどまりません。政府・与党は、昨年「国民に対して丁寧に説明していく」とい

いながら、真摯に向き合っていない。この問題の発覚後も、世論におされる形でしじぶといった状態です。

そもそもなぜ改ざんしなければいけなかったのか？国民の政治、行政への不信感は高まっています。

とも4月号が配布される次期にはこの問題が進展しているかもしれませんが、疑惑隠しを許さない、国民の世論を大きくしていく必要があります。（奥村）